

今村復興大臣「牡蠣の家」訪問ぶら下がり会見録
(平成29年1月13日(金) 13:50～13:53 於) 東京都千代田区)

1. 質疑応答

(問) 今日、試食をされてご感想如何でしょうか。

(答) いやあ、もう本当にうまかった。特に牡蠣を4つぐらい食べたかな。

(問) どうですか、(地元の)玄界灘の魚もおいしいでしょうけれども、宮城の牡蠣もおいしいでしょう。

(答) やっぱそれは牡蠣はこっちの方がうまいね。

(問) こういうオフィス街のど真ん中に「牡蠣小屋」がある。そこで宮城の非常に大きな被害を受けた場所の牡蠣がこうやって提供されるということはいかがでしょうか。

(答) 大変良いことで、今日も言ったように、どんどん牡蠣を焼いて、匂いを周辺に広めて、みんなが寄ってくるように、特に最近はどういう残業はやってはいけないということになっているから、牡蠣の煙で引き寄せて、ついでにほかのいろいろな、銀鮭など美味しいものを食べてもらって、やっぱりうまいな、と思ってもらえば一番いいんじゃないの。消防車が出るぐらいに牡蠣焼きすればいい。

(問) 煙でですか。

(答) はい。

(問) 被災地の水産加工業の販路回復が課題になっていますけれども、今回、こういったのが一つ成功例だと思います。今後、復興庁としては、こういった成功例をもとに、こういった支援をお考えでしょうか。

(答) まず隋より始めよと言うけれども、こうやって実際に安全ですよ、おいしいですよということを、やっぱりさっきも言ったように、大消費地の東京でアピールすれば、消費は回復しますよ。そうすると、買い叩きなんかも逆に起こらない。需要が増えれば、それだけ値段が上がるんだから。だから、買い叩きをしたような業者にはもう売らないぞと言えればいいんだよ。そういう意味で、是非これから、今日は宮城だけだけれども、あと岩手にしても、福島にしても、是非やってもらって、水産業はさっき言ったように、世界三大漁場に面したところの地域だから、それをしっかり強みを生かして頑張ってもらいたいなど。またそれだけの力は、中身はあると思いますから。

(問) おにぎりとかも、宮城県産のお米を使われていたりしていたようなんですけれども、農産物に関しても、復興という面では関連があって、お味はどうでしたか。

(答) さっき言ったようにいろいろな、牡蠣もあったし、ホヤもあつ

たし、宮城のお米も、ちゃんとおにぎりも食べたし、おにぎりに海苔も巻いてあったし、おいしかった。

(問) 漁業だけではなくて、農業の復興という面も。

(答) そうですよ。やっぱりお魚の料理とお米というのは非常に相性がいいですから。お魚とパンではちょっといまいちかもしれないけれども。

(問) 漁業とセットで出す、牡蠣とセットで出すことで。

(答) そう。牡蠣もいろいろな料理の仕方があるではないですか。いろいろ工夫して、非常においしかったです。今日は(バドミントン金メダルの)タカマツペアを見たから、オリンピックということで内村氏の話だけしてしまったけれども、お二人にも頑張れと言わないといけなかったな。しっかり食べてもらって。

(問) 復興五輪という意味では、次々、オリンピック選手がこういう形で加わってもらえれば、地元にとってはうれしいと思うんです。

(答) あの2人も若いじゃない。東北も若い人がやっぱり、ある意味、しっかり頑張ってやっていってもらわなければいけない、非常に良いことではないですかね。

(以 上)